**２　宗教の教え**p.25～28

異邦人への宣教(伝道)で大きな役割を果たした**パウロ**は，律法によって神に救われるとするユダヤ教ファリサイ派(パリサイ派)であり，イエスの弟子の**ペトロ**たちを迫害していた。しかし，復活したキリストに出会ってし，キリスト教徒になった。パウロは宣教を通じて，人間を原罪から解放するのは律法の遵守ではなく，キリストへの信仰であるとし，「人が義とされるのは律法の行いによるのではなく信仰による」と説いた(**信仰**)。彼はキリスト教のとよばれる**信仰**と**希望**と**愛**を身をもって世に示しながら，各地に宣教し，また書簡を書き送って人々を励ました。

**キリスト教の展開**

４世紀初頭にローマ帝国で公認され，４世紀末には国教となったキリスト教の教義の形成に関わったたちは，プラトン哲学をはじめとするギリシア・ローマの哲学を用いながら，使徒たちが伝えた正統的信仰を説明するとともにをし，父なる神と子なるキリストと聖霊の三者は本質において一つであるとするの教義などを確立した(**教父哲学**)。代表的教父**アウグスティヌス**によれば，人間は罪深く，神のみ（恩恵・）によらなければ善をすこともできず，救われることもできない。神が与える恵みと救いは神の意志によってあらかじめ決められており(**恩寵予定説**)，ローマ=**カトリック教会**によって正統的信仰に導かれるとした｡

12世紀ごろ西ヨーロッパの諸都市で大学が成立していくと，哲学は神学に仕えるもの(「哲学は神学の」)と位置づけられ，哲学を用いた神学研究が活発になった。そのように神学と結びついた哲学は学校(スコラ)で教授・学習されたため，**スコラ哲学**とよばれる。最大のスコラ哲学者**トマス=アクィナス**は，信仰と理性の調和をはかり，とくにアリストテレスの哲学を用いてキリスト教の信仰を体系的に説明しようとした。

●**確認問題**

**問１　次の文が正しい場合には○，誤っている場合には×を（　）に記入しなさい。**

１．パウロは，自らの原罪を贖うことで，救いがもたらされると考えた。（　　　）

２．アウグスティヌスは，罪深い人間は，神の恩寵によらなければ善を志すこともできないと説いた。（　　　）

３．トマス=アクィナスは，信仰と理性は切り離して論じることができると考えた。（　　　）

４．スコラ哲学は，プラトン哲学を用いてキリスト教の信仰を体系的に説明した。（　　　）

**問２　罪深い人間の救済に関するパウロの義認の教えの説明として正しいものを，次の①～④のうちから一つ選べ。****（センター試験2013年・本試）**

①　罪深い人間が義とみなされるのは，イエスの十字架の犠牲に倣った身体的な苦行によるのみである。

②　罪深い人間が義とみなされるのは，イエスの贖罪に示された神の愛への信仰によるのみである。

③　罪深い人間が義とみなされるのは，信仰・誠実・愛というキリスト教の三元徳によるのみである。

④　罪深い人間が義とみなされるのは，父・子・聖霊の三位が一であるという教義への精通によるのみである。

紀元前1500年ごろ，中央アジアからインド亜大陸に侵入したアーリア人は，身分制度(**カースト制度**)をもつ社会をつくりあげた。身分制度の最上位にあるバラモンたちの知識は，**ヴェーダ**聖典に残され，**バラモン教**の基礎となった。

**ウパニシャッド哲学**

バラモン教の**ウパニシャッド哲学**には，生きとし生けるものはうまれかわり，苦しみの生存を繰り返すという転生の考えがある。死後にうまれかわる世界は，この世でのおこない(，**カルマ**)の善悪により定まるが，真の幸福は，輪廻そのものから解きはなたれること()で得られるとされた。ウパニシャッド哲学では，解脱の達成のため，宇宙の諸現象の根源にある最高の存在者である**ブラフマン**()と，自己の内奥にある真実の自己である**アートマン**()との一体化の境地()を求める道が説かれた。

ブッダの死後，仏教教団は，を厳格に守ろうとする保守派のと，戒律を柔軟にとらえる進歩派のとに分裂し，さらに複数の部派へわかれた(**部派仏教**)。このなかでは，などの実践をおこなう僧侶(者)と彼らを経済的に支援する一般信者(者)とが明確に区別されていた。だが，西北インドに異民族の侵入があいつぐ紀元前後のころ，一部の部派と在家者たちのなかから**仏教**の運動が発生し，出家・在家の区別をこえ,ともに他者の救済をめざす実践に励むべきである，と唱えた。

**大乗仏教の成立と**

**その教え**

大乗仏教のに共通する主題は,自分の悟り()よりも他者の救済()を第一に考えながら，ブッダと同じ悟りをめざす者()たちの生き方である。菩薩は，をはじめとするの実践をおこなう存在である。また，大乗仏教のなかには，誰でもがブッダと等しい境地を得ること()ができることを強調し，｢あらゆるものには本来的にたるべきがある｣()という教説もある。

●**確認問題**

**問１　次の文が正しい場合には○，誤っている場合には×を（　）に記入しなさい。**

１．梵我一如とは，アートマンと宇宙的原理が同一であることを直観し，永遠性を獲得した境地である。（　　　）

２．大乗仏教は，他者の救済より自分の悟りを重視する。（　　　）

**問２　大乗仏教における菩薩についての記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。（センター試験2001年・本試）**

①　悟りを開こうとする求道者だが，生きとし生けるものすべての救済のためには自己の悟りを後回しにして献身する。

②　悟りを開いて真理に目覚めた者だが，実は肉体をもって出現した宇宙の真理そのものである。

③　悟りを開く前のブッダの姿であり，苦行にも快楽にも偏らない中道を歩む者である。

④　自己の悟りを求めて厳しい修行を完成した聖者であり，次に生まれ変わったときには仏となることができる。

は，人間の本性(うまれながらの素質)は善であるとするを唱えた。四つの徳の(ばえ)であるの心を自覚的に大きく育てていけば，**仁・義・礼・智**のが実現され，天地にちあふれるほどの強く正しい気力(**の気**)がわれる。孟子は，善行を積み重ね浩然の気を養う者をとよび，理想の人間像とした｡ また，父子・・夫婦・・という基本的な人間関係のあり方として，の道を示した。政治に関しては，武力などの力によって民衆を支配するをけ，に基づいて民衆の幸福をはかる**王道政治**を強調した。さらに，王の徳をもたず民意に背く君主は，もはや天命を失ったものとして追放されるという**革命**の思想を展開した｡

**孟子と荀子**

はを唱え，人間はうまれつき欲望に従って利を追い求め，人を憎む傾向があるため，自然のままに放置すると争乱に陥るとした。それゆえ，社会のをつためには，欲望に流される利己的な傾向を，としての礼を身につける努力と教育によって，的にしていく必要がある(**主義**)。

荀子の性悪説を継承したのは，人間の利己心を利用してを厳格におこない()，法に基づく政治をおこなうべきだと主張した(**主義**)。儒家と対立したの開祖()は，儒家の家族愛的な仁に対して，「ねて愛していに利すること」()を重んじ，**非攻論**を展開した。

宋代以降は，それ以前のにかわってを重視するがあらわれた｡**学**を唱えた()は，世界を，をく宇宙の原理(**理**)と，万物の物質的な素材(**気**）によって構成されているものととらえた(**理気二元論**)。理とは万物を成立させる規範的原理であり，それはまた人間の本性(性)でもある()。朱子は，なる理に従う()とともに，事物の理の究極に至ることで知を極めるべきこと(，)を説いた。

**朱子学と陽明学**

これに対して明代のは，**陽明学**を唱えて朱子学に対立し，人の心の本体こそが理であるとした()。理は，心に先天的に備わる善悪を判断する能力()を発揮するところにあらわれるものであり，この良知をきわめて生きること()が求められる。さらに，真に知ることと実行することは同一であると主張した()。

●**確認問題**

**問　明代の王陽明は朱子学を批判することによって独自の思想を打ち立てたといわれる。彼の朱子学批判の内**

**容を説明した記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。（センター試験1998年・本試）**

①　理を万物に内在する秩序原理として客観視することは，人間の心の本性である気を無視し，人間の感情的側面を不当に貶めるものである。

②　理の重視は，もっぱら自己の心を重視することにもなり，それはこの世界の調和と秩序をかえって破壊し，争いを招くもとになる。

③　理を万物に内在する秩序原理として客観視することは，本来相即している心と理とをことさらに分離し，対立させるものである。

④　理の重視は，理想的な統治を性急に追い求めるあまり，礼の形式を無視することになり，正しい君臣関係を見失わせてしまう。

老子や荘子の思想は，道を中心に説くので**思想**とよばれる。　　　　　　　　　　　は，万物をうみだす根源，あらゆるを成立させる原理である「**道**」を説いた。道は，万物からは何もしていないようにみえ()，万物は自分自身で行動する(**自然**)という形であまねく働いている。老子は，道の働きにまかせた無為の政治が実現した姿を，人々がでな生活に自足する小な共同体としていた()。老子の思想では，万物をうるおしながらなにものとも争わず，低いところへ流れてゆく水のような，柔軟でへりくだった心をもつこと()が，人の生き方の指針とされた。

**老荘思想**

は道に即した生き方を，個人の内面的な心の世界に求めようとした。荘子によれば，人間という立場を離れ，道の立場からみれば，万物には区別や差別などはなく，みなしい()。そこから荘子は，心をしくして知や感覚を忘れる() ことにより，一切の対立・差別やにとらわれず，世界と一体となり，おおらかな絶対自由の境地に遊ぶ()人を，()とよび，人間の理想とした。

●**確認問題**

**問１　次の文が正しい場合には○，誤っている場合には×を（　）に記入しなさい。**

１．老子が説いた道とは，神秘的な宇宙の根本原理であり，感覚ではとらえられない。（　　　）

２．老子は，水のような柔弱なあり方に従って生きるべきであるが，人からさげすまれたときは，声をあげるべきだと説いた。（　　　）

３．無為とは，すべての行為を捨てて，何もしないことである。（　　　）

４．荘子によれば，是非・善悪・貴賤は人間だけに通用する相対的なもので，万物に区別や差別はない。（　　　）

**問２　老子，荀子に関する記述として最も適当なものを，次の①～④のうちからそれぞれ一つずつ選べ。老子についてはＡに，荀子についてはＢに答えよ（センター試験2002年・本試を改変）**

①　他者への親愛の情にもとづいて行為することが，人間社会の理想であるとし，法や刑罰のみによって人民を統治することに反対した。

②　生があり死があるのは運命であり，両者を一体と見てありのままに受け入れるところに束縛からの解放があると考えた。

③　水のように柔弱なあり方に従い，人からさげすまれる地位に甘んじてこそ，真の勝利者となることができると説いた。

④　人に善があるのは，曲がった木が矯め木や蒸気でまっすぐになるのと同様に，後天的な矯正によるものであると主張した。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**Ａ**　　　　　　　**Ｂ**